

科目名 (Subject)	西洋経済史特論A <Special Study of Western Economic History A>			現代経済経営専攻
科目区分	A	後期	研究室番号 (Office)	408
単位数 (Credits)	2			
担当教員名 (Name)	高井哲彦 <たかい てつひこ/TAKAI Tetsuhiko>			
<p>1. 授業の目的 「交錯」の歴史 (histoire croisée) をテーマに西洋経済史の新しい方法論を考察する。新制度主義、グローバリズム、文化主義、制度主義、革新主義、組織史、現代史、帝国主義と続いた学際的方法論検討の一貫である。本講義は、国際化する大学院環境を最大限活用する形で、実践的かつ能動的なグループワークを取り入れたい。</p> <p>2. 授業の内容 アナル学派社会経済史は、第1世代の心性の歴史、第2世代の数量史、第3世代の歴史人類学など、全体史を志向してきた。実証研究が多極化を深める中、「歴史の破裂」「歴史の危機」が叫ばれ、文化史、組織史、政治史など、第4世代が模索されてきたが、「歴史と社会科学」の関係を再考するのに止まった。もっとも注目されているのが、M. Werner と B. Zimmermann が2003年に『アナル』誌で発表した「histoire croisée (イストワール・クロワゼ、以下、交錯の歴史)」である。交錯の歴史は、従来のアナル史学が中世・近世を対象にしたのに対し、グローバリゼーションと脱植民地化を踏まえ、現代史における相互交渉の新しい視点を提起する。 本講義では、分析対象を具体的な次元に下ろして、国・地域・民族の間の諸交錯を考察したい。</p> <p>3. 授業の方法 第1部は、「交錯する歴史」の概念を手がかりに、『社会史と経済史』の帝国主義論等について、講義を行う。第2部は、文献検索 (附属図書館参考調査掛)、資料収集 (道行政情報センター)、画像分析 (バルタン『図の記号学』)、研究報告 (西洋経済史) など、課題遂行に必要な研究手法に関して教育的なワークショップを行う。第3部では、受講者を2名1組のグループに分けて、人 (移民)、物 (物流)、金 (投資)、知 (技術移転) の交錯のいずれかを選んでもらう。その上で、2つ以上の具体例を取り上げ、「その交錯が歴史の変化に対してもった意味」を比較し、2回に分けてグループ発表をし、レポートにまとめてもらう。その際、使用する文献・資料は受講生の専門領域と母国語に即しても構わないが、発表は日本語または英語とする。なお、発表とレポートは、統計、年表、概念図 (または地図) を含むことを条件とする。</p> <p>4. 使用教材 C. フェインSTEIN & A. ディグビー (高井哲彦他訳) 『社会史と経済史—英国史の軌跡と新方位』北海道大学出版会、2007年 (C. Feinstein, A. Digby, <i>New Directions in Economic and Social History</i>, Macmillan, 1989)。 cf. Michael Werner et Bénédicte Zimmermann, <i>De la comparaison à l'histoire croisée</i>, Paris, Seuil, 2004. ※参考</p> <p>5. 成績評価の方法 課題1回分を20%分の評価とする。発表3回とレポート2回なら期末試験は行わないが、発表・レポートがそれ以下の回数の場合は、期末試験を行って評価を補充する。また、2割以上の欠席あるいは2回連続の無断欠席は履修放棄とみなす。課題放棄時は評価を下げる。</p> <p>6. 履修上の注意事項 西洋経済史特論Aと西洋経済史特論Bは、同時履修を必要としない。西洋経済史特論Aは、西洋経済史特論Bの入門編である。修士1年生を主な対象とし、外国人留学生の履修をも配慮するが、もちろん、修士2年生や博士課程院生も歓迎する。狭義の西洋経済史専攻者のみならず、多領域からの参加を期待する。 備考: HPを参照のこと。http://www.takait.com</p>				

科目名 (Subject)	西洋経済史特論B <Special Study of Western Economic History B>			現代経済経営専攻
科目区分	A	後期	研究室番号 (Office)	408
単位数 (Credits)	2			
担当教員名 (Name)	高井哲彦 <たかい てつひこ/TAKAI Tetsuhiko>			
<p>1. 授業の目的 「交錯」の歴史 (histoire croisée) をテーマに西洋経済史の新しい方法論を考察する。新制度主義、グローバリズム、文化主義、制度主義、革新主義、組織史、現代史、帝国主義と続いた学際的方法論検討の一貫である。本講義は、方法論的関心を持つ学生を対象に、国内外の最新文献を検討したい。</p> <p>2. 授業の内容 アナル学派社会経済史は、第1世代の心性の歴史、第2世代の数量史、第3世代の歴史人類学など、全体史を志向してきた。実証研究が多極化を深める中、「歴史の破裂」「歴史の危機」が叫ばれ、文化史、組織史、政治史など、第4世代が模索されてきたが、「歴史と社会科学」の関係を再考するのに止まった。 もっとも注目されているのが、M. Werner と B. Zimmermann が2003年に『アナル』誌で発表した「histoire croisée (イストワール・クロワゼ、以下、交錯の歴史)」である。交錯の歴史は、従来のアナル史学が中世・近世を対象にしたのに対し、グローバリゼーションと脱植民地化を踏まえ、現代史における相互交渉の新しい視点を提起する。 本講義では、分析対象を国際交渉に絞って考察したい。</p> <p>3. 授業の方法 第1講目は基調講義「histoire croiséeをいかに考えるか」とし、第2講目以降は、文献講読を進める。</p> <p>4. 使用教材 英語文献なら以下を中心とする。受講生が日本語文献を希望する場合、相談に応じる。 Barry Buzan and Richard Little, <i>International Systems in World History</i>, Oxford University Press, 2000. Daniel Held and Anthony G. McGrew, <i>Global Transformation Reader</i>, Polity Press, 2003. cf. Michael Werner et Bénédicte Zimmermann, <i>De la comparaison à l'histoire croisée</i>, Paris, Seuil, 2004. ※参考</p> <p>5. 成績評価の方法 1. 講義参加30%、課題30%、期末試験40%を目安に総合的に評価する。 2. 2割以上の欠席あるいは2回連続の無断欠席は履修放棄とみなす。 3. 課題放棄時は評価を下げる。</p> <p>6. 履修上の注意事項 西洋経済史特論Aと西洋経済史特論Bは、同時履修を必要としない。西洋経済史特論Bは西洋経済史Aの応用編であり、単位取得には一定水準の読解力が必要である。狭義の西洋経済史専攻者のみならず、多領域からの参加を歓迎する。 備考: HPを参照のこと。http://www.takait.com</p>				